

「癒しと安らぎの環境」フォーラム 2022

表彰式・コンサート リポート



「癒しと安らぎの環境賞2022」受賞者 左より辻口氏、原田氏、清水氏(順天堂医院)、清水氏(世田谷記念病院)笠山氏、佐藤氏、荒井氏、長澤氏、生島氏、尾尻



「集中医療大賞2022」「集中医療大賞・高久史磨特別賞2022」受賞者 左より辻口氏、原田氏、門脇氏、竹田氏、南淵氏、前川氏、長澤氏、生島氏、尾尻

2022年12月17日、社会に多大な貢献をされた医療従事者を顕彰する「集中医療大賞2022」と、美術や音楽、癒しの活動を積極的に取り入れ、心地良い空間作りに取り組む医療施設を顕彰する「癒しと安らぎの環境賞2022」の表彰式、及び「Art in Hospital チャリティーコンサート」が東京都港区のサントリーホール「大ホール」で開催された。

表彰式では、主催者代表で集中出版最高経営責任者の尾尻佳津典が、「このフォーラムは今年で20周年を迎えました。これもひとえに後援して下さる多くの企業の皆様方、医療関係の

皆様方のお陰と厚く御礼を申し上げます」と謝辞を述べ、「20年はあっという間でしたが、振り返ればその間に、創設メンバーの日野原先生、高久先生、カメラマンの稲越先生が亡くなりました。その方達の遺志を継ぎ、この会を継続すべく益々活動に力を入れて参ります。『継続は力』と言いますが、支えて下さる方が居からこそ継続が出来ます。この活動は、20年前と比べ今の方がより必要とされています。それは現在の日本が世界も驚く程の速さで高齢社会を駆け抜け、そして超高齢社会に入っているからです」と締め括った。

次に、来賓として衆議院議員の三ッ林裕巳氏が、「20周年を迎え、盛大に開催されます事を心からお喜び申

し上げます」と祝辞を述べ、「今国会に於きまして、感染症法の改正、また障害者総合支援法の改正等を行いました。ただ法律が改正されても、新型コロナウイルスの蔓延によってアートと触れ合う機会が少なくなり、安らぎも癒しも無くなっている様です。この生活環境の中で、アートの必要性を再認識したのではないのでしょうか。今日のこのコンサートが、皆様にとって、そして日本の医療の発展にとって、良い機会として捉えられればと思います」と挨拶した。

又、今年度新たに理事に就任した麻倉未稀氏（歌手）、生島ヒロシ氏（フリーアナウンサー、東北福祉大学客員教授）、幸田正孝氏（元厚生事務次官、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構顧問）、徐志敏氏（株式会社ジェー・シー・ディ代表取締役）、Joseph Ibanez 氏（University of Cambridge Japan Consulting Supervisor 共同代表）、辻口博啓氏（「モンサンクレール」オーナーパティシエ、株式会社スーパースウィーツ代表取締役）、原田義昭氏（元環境大臣、弁護士）の7名が紹介され、実行委員会を代表し4名の理事が挨拶に立った。

最初に挨拶に立ったのは、「日本の医療の未来を考える会」の最高顧問を務める原田義昭氏。「新型コロナウイルス感染症が日本社会を覆い尽くしましたが、日本ばかりではなく世界中の人々にとっても大変な苦痛でした。ようやく先が見えて来たかと思っていますが、これからも気を緩められないと感じています。特に、医療関係者の皆さんが国民を指導して下さっている事に敬意を払い、心から感謝を申し上げます。又私たち理事も、日本の医療の未来をしっかりと支えて頑張ります」と決意を述べた。

続いて、病院建築の第一人者で、ハピネスライフ財団理事長の長澤泰氏が、「20年前の設立時、著名な先生方と名を連ねさせて頂きましたが、人生100歳以上という事ですので、これからも頑張りたいと思います」との決意に続けて、

「長い間、東京大学で病院建築の研究と設計指導等に携わっていましたが、工学院大学では『ジェロントロジー』という、共生社会を目指した共生工学をセンター長として研究して来ました。病院は身体を治す所ですが、心も直さなければならないという考えから、私達は『健院』を主張して、その実現の為に『ハピネスライフ財団』を設立し努力しております」と言葉を述べた。

次に、医療界外から理事に就任した1人として、生島ヒロシ氏が挨拶に立った。ラジオパーソナリティを務める立場から、「私のラジオ放送では、心と身体と財布の健康をテーマとしており、三位一体にならないと、人間の幸せや国民の幸せは望めないと思っています」と言い、「ビル・ゲイツ氏の慈善事業への取り組みが、稲盛氏の言葉である『ど真剣』に通じると共に、世界の幸せを願っていると伝わり感動しました。日本の医療も、今こそ『皆の幸せは何なのか』『医療の在り方は何なのか』を根本的に問い、日本の底力を発揮して世界に通用する展開をして行く必要が有ると思っています」と、今後の日本の医療の在り方を提言した。

同じく医療界外の理事で、日本のスイーツ界を牽引する辻口博啓氏からは、「パティシエと医療がどの様に結び付くかという事を考え、やはり血糖値の上がり方、糖との関わり方をデータベース化して、正しくお菓子と向き合える様な社会を作って行きたいと思っています。その上で、糖尿病予備軍を少しでも減らし、健康な日本の社会作りに協力出来ればと思っています」と、パティシエの見地から健康との関わり方が提案され、全ての挨拶を締め括った。



主催代表の挨拶と表彰を待つ壇上の受賞者



集中医療大賞 2022

世界一の長寿国日本。その長寿は世界に誇る高度な医療のお陰である。日本全国どこでも、必要な時に高度な医療を受けられるのは、医師を始めとする医療従事者の献身的な働きによっている。そこで、こうした献身的な働きを続ける医師・医療従事者の方々に感謝すべくこの賞を贈呈し、顕彰する。

開催：2022年12月17日(土)

会場：サントリーホール「大ホール」



門脇 孝

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 院長

糖尿病学の権威として2型糖尿病の原因の究明に貢献。患者中心の医療を掲げて虎の門病院の院長として奮闘。医療を通じて多大な貢献をされた事を顕彰。



『集中』は医療と社会に関して、国民の良識を反映させる様々な意見を掲載しています。今回この様な賞を頂いた事は、大変嬉しく光栄です。私は糖尿病を専門とする内科医として、2型糖尿病の原因となる分子メカニズムの研究に携わって来ました。原因の解明を効果的な治療に繋げて患者を

救いたいと思っていましたし、予防が実現して糖尿病の無い世界になればという思いもありました。東京大学医学部附属病院と虎の門病院で院長を務めて来ましたが、どちらの病院にも様々な領域を専門とする医師が居て、私と同じ様に患者の事を考え、日々最善の診療を行い、研究に取り組んでいます。院長の私は、彼等の思いが実現するように病院運営を行っています。医師・研究者の仕事も、院長の仕事も、取り組む気持ちは一緒なのです。糖尿病の医学は著しく進歩し、糖尿病でも元気で長生き出来るようになりましたが、社会には糖尿病患者に対する偏見や差別が残っています。糖尿病を持つ人が普通の人として扱われる社会が来る事を望んでいます。

竹田 晋浩

医療法人社団康幸会かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長

COVID-19との戦いで命を救う最後の砦として大活躍したECMO。この操作困難な医療機器で多くの命を救う等、医療を通じて多大な貢献をされた事を顕彰。



「集中医療大賞」を頂けた事は、大変光栄に思っております。仕事で御一緒させて頂く事がある大阪大学の澤芳樹先生が以前受賞されていますが、今回の受賞を報告したところ、喜んで頂けました。『集中』は、現場の臨床医の問題から医療行政の問題迄、医療の幅広い分野に関わる様々

な意見が掲載されているのが特徴かと思います。医師は自分の専門分野には精通しますが、視野が狭くなりがちなので、幅広い分野の多くの意見や知恵に接する事が出来るのは、素晴らしい事だと感じています。私はECMOを日本に広める仕事に取り組んで来ましたが、皮肉な事に、COVID-19はECMOを普及させるのに大いに貢献しました。ECMOは心肺蘇生でも使用しますが、この場合は使っても2～3日。呼吸器疾患で使う場合は平均2週間、長ければ1カ月に及ぶ事も有ります。治療期間が長くなる程、扱う医療者の能力差が出てしまうので、ECMOを扱う医療者の養成は重要です。

南 明宏

昭和大学横浜市北部病院 循環器センター長・心臓血管外科 教授

人知れぬ努力と数多くの手術を行い、ゴッドハンドの異名を得た。心臓外科の世界を縦横無尽に行動して多くの命を救い、医療を通じて多大な貢献をされた事を顕彰。



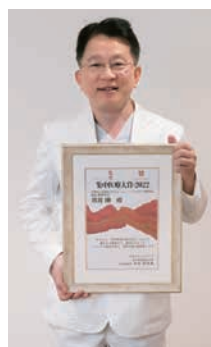
順天堂大学の天野篤先生や大阪大学の澤芳樹先生等、医学界をリードして来た名だたる方々と同じ賞を頂ける事を嬉しく思っています。『集中』はしっかりと意見を発表出来る場だと考えています。このまま行けば皆一緒に崖から落ちてしまうという時でも、声を上げると誹謗中傷

されるのが今の社会です。誰もが目立ちたくないので声を上げない。一緒に崖から落ちるなら、それで構わないと思っています。嘗て私は『集中』で連載をさせて貰いました。尾尻代表が、一民間病院の心臓外科医だった私を起用してくれた事を意気を感じて、執筆しました。これ迄にいくつかの雑誌に関わって来ましたが、実際のところ『集中』でしか書けない事が在るのです。DAO (Decentralized Autonomous Organization) とは、集権的な統治を認めない自律した組織の事です、今必要なのはそれだと思います。日本では集権的・階層官僚的な統制を行おうとしています、それは医療の世界にはそぐわないと感じています。

渡邊 剛

医療法人社団東京医心会 ニューハート・ワタナベ国際病院 総長兼理事長

困難な手術で人の命を救う事を生き甲斐に、ドイツで研鑽を積み、高い技術を獲得。心臓外科医として最高の環境で最高の医療を提供する、医療への多大な貢献を顕彰。



ロボット手術に長年携わっており、それが評価されて「集中医療大賞」を頂けるのは大変光栄で有り難い事です。『集中』の尾尻代表に感謝致します。今迄の、日本初のダヴィンチによるロボット手術やオフポンプでのバイパス手術、心拍動下での僧帽弁手術、そして世界初の完全内視鏡

下冠動脈バイパス手術等、日本初や世界初という手術に加えて、病院を設立した事も評価の対象になったのかも知れません。特に、患者さんの負担軽減の為に身体の傷を小さくする事や、人工心肺を使わない事を第一に考えていた点も、今回の評価に繋がったのではないのでしょうか。患者さんの負担が軽くなる分、それを完遂するには医師の負担が大きくなりますが、如何に早い回復と社会復帰を実現するかが大切であると捉えています。『集中』は、経済や社会とも繋がり有る日本の医療の本質を深い部分にまで突っ込んで描き出している、大いに期待しています。

Ravindra Gupta

University of Cambridge Professor of Clinical Microbiology

エイズ患者を寛解させたニュースは『ロンドンペイシェント』の名と共に世界中を駆け巡った。COVID-19でも数多くの論文を発表、世界で最も論文が引用される等の功績を顕彰。



Thank you very much. I am truly delighted to receive the news of a very prestigious award in Japan. My primary research so far has been the London Patient. Also, COVID-19 has disrupted medical care around the world. During this period, I have continued my

laboratory research in Cambridge on the virus. I have published many papers so that I can contribute to the world's medical investigation during this pandemic. I believe that my research has helped many researchers around the world, which led me to receive this award. I hope that Shuchu Publication, Ltd will create a forum for the publication of medical research papers in Japan. Finally, the lecture I gave in Japan at the invitation of Shuchu Publishing was a very meaningful and productive. I wish Shuchu Publishing Ltd, all the best in their future endeavours and international undertakings.

前川 恭子

萩市国民健康保険むつみ診療所 所長

スタッフ皆が交代で休めるようにする等、人材不足の地域医療でも働きやすい環境作りに励む。医療を通じて多大な貢献を重ねて来た事を顕彰。



高久史磨先生には1回しかお会いした事が無いので、受賞を聞いて驚きましたし、大変光栄です。子供の頃から田舎のお医者さんになりたかったのですが、それは患者さんをゆっくり診察出来るからです。私が医学生の際は、本当の意味での総合医というものが在りませんでした。

色々な患者さんを診ると、1人ひとり個性が有り、様々な人生が在るものです。自分の子育てに役に立つ話が聞けるし、私自身の価値観も広がります。地域医療は患者さんとの距離が近く、学べる事が沢山有るのです。都会には高名な先生が大勢いらっしゃいますが、地方にも素晴らしい先生が数多くいらっしゃいます。今の専門医制度の中では地域医療に携わろうという人は少数派で、人口減少や過疎でニーズも減って行くかも知れません。若い人達には、自分の好きな事をどんどんやって欲しいです。その上で、もし、地域医療に携わってみたいという人が居れば、活躍の場を作ってあげるのが私の役目だと思っています。

癒しと安らぎの環境賞

この賞は、医療施設にアート(美術や音楽、癒しの活動等)を取り入れ、人や環境に配慮する事で、その施設が癒しと安らぎの場になってほしいと願い、2002年に日野原重明先生を名誉会長、岩崎榮先生を会長として立ち上げた。この趣旨に合う癒しの活動に熱心に取り組む医療機関にこの賞を贈呈し顕彰する。

順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児医療センター

小児医療センター開設で、病棟保育士や音楽療法士等が、子供の心配や苦痛を和らげると共に安心感を与え、心の問題をもサポートする癒しの環境作りと活動を顕彰。



これ迄個別に存在していた小児の診療科を、1つにまとめたのが小児医療センターの最大の特長です。縦割りだった診療に、「子供」をキーワードに横の繋がりを持たせられるようになりました。それ迄も小児科に

は保育士やボランティアがおりましたが、他の科には居なかった為、均一なケアが行われない可能性もありました。現在は子供の患者さんは全て小児医療センターに入院されますので、皆に同じケアを提供出来ます。小児の場合、成長や発達への気遣いは



清水 俊明・センター長

勿論の事、心のケアも重要で、治療や検査に対する苦しみや不安を取り除く事が非常に大切な為、子ども療養支援士や音楽療法士、ボランティア等のサポート体制も導入しました。子供達を想い、子供達が喜ぶ、子供達の気持ちに配慮した環境を目指す中で、今回の「環境賞」を受賞出来た事は、私達の活動が評価され結実した証となり、論文等が評価された時とは違った感動が有ります。また雑誌『集中』では、日頃気付けない医療の周辺環境にも注目して下さり、非常に感謝しています。

医療法人平成博愛会 世田谷記念病院

長期急性期病床という独自のコンセプトを掲げ、見晴らしの良い患者食堂兼相談室、開放感いっぱいの中庭等、リハビリ患者に癒しとなる空間作りを顕彰。



この度の受賞は、日頃コロナ禍で奮闘しているスタッフの日々の努力の結果であり、大変光栄に思っています。米国にはLTAC (Long Term Acute Care) 病院、つまり「長期急性期病床」が在りますが、当院はグループの会長である

武久洋三先生が「PAC・SACを専門的に取り組む日本版LTAC」を創設すべく10年前に設立しました。そして、地域の多くの事業所からご相談頂く「在宅復帰支援」に注力。病床の多くを個室とし、出来るだけ患者さんの自宅に於ける療養環境に近い形でリハビリを行い、早期



清水 英治・院長

の在宅復帰を支援しています。コロナ禍に於いても「絶対に見捨てない」というグループの理念の下、患者さんにとって必要な「当たり前」をきちんとやり遂げ、院内の職種・専門性の枠組みを超え不安や困難を抱えている人をあらゆる方法で支援しています。昨年より本格的に取り組んでいる院内組織向けの「心理的安全性」の取り組みや、入院患者さん向けの「ドックセラピー」などもその一環です。患者さんは勿論、職員にとっても“癒しと安らぎ”の環境を整えていく事がよりチーム医療の質の向上に寄与すると考えています。

公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院

「アートと医療の融合」をコンセプトに、「心と身体の癒しを提供する、心地好い快適な病院」を目指した、患者や住民の憩いの場となる癒しの空間作り活動を顕彰。



1924年に設立された日本生命済生会は、当初から「人々の生命や生活を救い、人々の役に立つ」を意味する「済生利民」を基本理念として来ました。当院は元々アートに高い関心があった訳では無く、移転地に府立

江之子島文化芸術創造センターが在り、周辺を大阪のアート発信源にしたいという府の思いも有って、医療とアートの融合を考えるに至りました。医師オスラーが「医療はサイエンスを基礎にしたアートである」と言う様に「アート」は心の癒し、「医療」は心と身体



笠山 宗正・名誉院長

の癒しと捉え、1階の半分以上をアートスペースとし、患者さんや近隣の住民に開放しています。又、霊安室や手術室へ続く廊下にも安らぎの環境作りをしています。『集中』は非常に幅広い観点で出版されていると感じていますが、こうした取り組みを内外に広める為にも、「環境賞」として認めて頂いた事は有り難い限りです。今後の医療は予防医学が進展し早期診断・治療が進む事で、先進医療や特殊技術が重要になる為、これ迄とはまた違った幅広い視点が求められると思います。

認定 NPO 法人 マギーズ東京

がん患者や家族が看護師ら専門職スタッフに無料で相談出来る英国発祥の民間施設が2016年開設。来訪者を癒す空間作りの活動に対しての顕彰。



当施設はチャリティで成り立っており、今回の受賞によって多くの方に知ってもらえるのは、とても嬉しいです。又、新たにご協力頂ければ、大変有り難いです。マギーズセンターは、乳がんで亡くなった英国人

造園家、マギー・ジェンクスさんの「治療中でも患者ではなく1人の人間で居られる様な場所を」という願いを基に、1996年英国に出来た相談施設です。日本のがん相談室は院内に在りますが、病院の中だと患者という立場からは逃れられません。英国のコンセプトはそれが院外に在る事。病人としてではなく、1人の人間として居られる場です。私達は来訪者を「患者」ではなく「がんと共に歩む人」と表現しています。マギーさんの遺志に沿い、「第2の我が家」の様な居心地良い環境で、友達のように親しく医療者と話したり、プログラムに参加出来るようにしています。その為には建築による環境作りが重要で、例えば、自然光をたっぷり取り入れ、開放的な空間で落ち着ける雰囲気が必要で、湾岸エリアの当施設は海風も感じる事が出来ます。



佐藤 由巳子・建築担当

社会医療法人財団仁医会 牧田総合病院

コンセプトは「病院らしくない病院」で、全ての場所がゆったりと作られ、曲線や間接照明が温かな雰囲気を醸成。患者の癒しと憩いの場にした環境作りと活動を顕彰。



蒲田への移転を契機に、「すべての人に安心を」というビジョン実現の為に、固定観念を打ち破り「病院らしくない病院」にしたいという考えで設計段階から話し合いました。「〇〇科」といった表示を一切止め、待

合も番号だけの表示にして、ホテルライクにしたいという構想からデザインやサインにも拘りました。患者さんに「ホテルみたい」と言われると非常に嬉しいです。ユニフォームやストラップ、封筒等のグッズの色調も統一した他、ロゴマークもリニューアルしました。院内にはベーカリーも在り、街に溶け込む様にサイン等も工夫した他、200人規模のホールも作り、開放する事で地域との交流を深める様にしています。こうした活動の中、来院する人達がすんなり入れる環境を作ったという部分を評価して頂いた「環境賞」の受賞はとても嬉しく思います。殊に、「環境賞」を立ち上げた雑誌『集中』については、独自のコンセプトで医療を様々な視点で捉えているのが興味深い点で、医療全体をユニークな着眼点で捉えている事にも感心します。



荒井 好範・理事長

「癒しと安らぎの環境」コンサート 2022

「集中医療大賞」「癒しと安らぎの環境賞」の発表後は、日本のオペラ界を代表するトップアーティストによるクリスマスチャリティコンサートが開催された。今年は来場者へチャリティを呼び掛け、日本赤十字社へ全額寄付を行った。

故・日野原重明先生に命名された「癒しと安らぎの環境」フォーラムは、アートや音楽を取り入れる事で医療施設が癒しと安らぎの環境になる事を願い2002年にスタートし、20周年を迎えた。この2年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、受賞者とその関係者のみで開催したが、22年は人数制限が解除され、感染予防対策を徹底しつつ通常開催をする事が出来た。

20周年記念のコンサートは、深い音楽性と透明感のある美声が魅力の森麻季さん、表現豊かな歌唱力に定評のある林美智子さん、益々円熟味が増す佐野成宏氏の、国際的評価も実力も群を抜くトップアーティストの3人が出演した。ピアノ伴奏は有名アーティストと共演し全国各地で活躍する山岸茂人氏。各々のソロ、ソプラノとメゾソプラノや3人の共演等、華やかな演奏で観客を魅了し、会場は感動に包まれた。

中盤に設けられた出演者3人によるトークの場では、当フォーラム20周年への祝辞と医療従事者への感謝のメッセージが述べられた。森麻季さんは「日々、過酷な現場で命と向き合い戦っていらっしゃる医療従事者の皆様にとって、ひと時の癒しと安らぎの時間になる様精一杯心を込めて演奏したいと思います。最後までごゆ



っくりお楽しみ頂ければ幸いです」と語った。

続いて、林美智子さんは「献身的に支えて下さる医療関係者の皆様に感謝致します。癒しと安らぎに繋がるのは、優しい気持ち、言葉、笑顔を心掛ける事ではないかと思います。音楽は、垣根無く世界中に繋がる存在です。心を尽くしてこれからも歌わせて頂きます」と述べた。

最後に佐野成宏氏は「大勢の皆様の前で、歌える幸せを本日改めて感じています。そして、生音が空気を通して皆様の体に伝わり、この波が繋がり合うような感覚、この生演奏ならではの素晴らしさを堪能して頂きたい」と締め括った。

今回からコンサートはチャリティ形式で来場者から寄付金を募った。集まった金額は総額21万4269円で、全額を当フォーラムより日本赤十字社へ送金した。



佐野 成宏氏・テノール



森 麻季さん・ソプラノ



林 美智子さん・メゾソプラノ



山岸 茂人氏・ピアノ



鈴木 光代さん・MC



「癒しと安らぎの環境」コンサートは、誰もが耳にした事のある親しみ易く癒やされる演目で構成している。今年もクリスマス間近の開催で、数々のクリスマスの名曲をお届けした。今年は、当フォーラムの設立当時から理事を務めるテノールの佐野成宏さん、この活動にご賛同頂いたソプラノの森麻季さんとメゾソプラノの林美智子さんの3人と、声楽伴奏ピアニストの山岸茂人さんにご出演頂き、華やかな舞台となった

【演奏曲】

オンブラ マイフ(G.F.ヘンデル作曲)／私を泣かせてください(G.F.ヘンデル作曲)／シオンの娘よ、大いに喜べ(G.F.ヘンデル作曲)／神の御子は(賛美歌)クリスマスメドレー(賛美歌 ああベツレヘムよ〜まきびとひつじを)／アヴェ マリア(F.シューベルト作曲)／幼子イエス(P.A.ヨン作曲)／アヴェ マリア(P.マスカーニ作曲)／アヴェ マリア(G.カッチーニ作曲)／星に願いを(L.ハーライン作曲)／アメージング グレイス(賛美歌)／さやかに星は煌めき〜オー ホーリー ナイト〜(A.アダム作曲)／アンコール 乾杯の歌(G.ヴェルディ作曲)、きよしこの夜(F.X.グルーパー作曲)



【主催】「癒しと安らぎの環境」フォーラム実行委員会

【共催】「日本の医療の未来を考える会」/University Of Cambridge Japan Consulting Supervisor

【後援】(公社)日本看護協会、スロベニア共和国大使館、中華人民共和国大使館、デンマーク王国大使館、ナイジェリア連邦共和国大使館、ハイチ共和国大使館、パラオ共和国大使館、パナマ共和国大使館、マラウイ共和国大使館

【特別協賛】サントリーホールディングス株式会社

【協賛】IBM Watson Health/MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社/MBM 株式会社/株式会社 DYM/
デル・テクノロジーズ株式会社/株式会社リレーションズ

【お知らせ】「癒しと安らぎの環境」コンサート2022の様子は、YouTube「集中チャンネル」で2023年2月上旬より無料配信致します。チャンネル登録をお願い致します。



©SHUCHUchannel